

穹蒼高く

(大正五年南寮寮歌)

長崎次郎君 作歌
黒住須賀夫君 作曲

一

穹蒼高く夜は深く
沈黙の柱に聳えたつ
桂の梢指すところ
北斗の冴に君見ずや
「吾が若人よ汝が野心
われにかも似て崇くあれ」

二

荒ぶ吹雪のもだすとき
六片の花咲くところ
皎たる天地塵絶えて
塞つる力を君よ知れ
「吾が若人よ北の曠野に
身を練り魂を磨かずや」

三

谷間の百合の香のゆらぎ
楡の若葉に陽はこぼる
春の息吹に渡り行く
時鐘の響に君よ聴け
「吾が若人よ石狩は
自由の郷土ぞ幸多き」

四

百鳥歌ひ花は笑む
美しき国の自治の家に
十一の春今日来る
祝歌たかく君歌へ
「迪に恵ふ若人の
住家よ永に栄あれ」

五

崇きのぞみを星に懸け
鐘に自由を学びつつ
真理を求むる一百の
健児が行手遠けれど
吾若き力強ければ
羸む秋は近からむ
など羸ざる事あらん